

心的時間旅行と情動

信原幸弘 (Yukihiro Nobuhara)

東京大学大学院総合文化研究科

タイムマシンに乗って過去や未来の世界を訪れることは原理的に不可能かもしれないが、心のなかで自分が体験した過去の世界や、これから体験するであろう未来の世界を訪れることは容易にできる。このような心的時間旅行には、どのような心的能力が必要だろうか。

心的時間旅行には、まず、記憶が明らかに必要だと思われる。過去を想起できなければ、心的に過去の世界を訪れることはできないだろう。しかも、心的時間旅行によって過去を訪れるというのは、自分が過去において体験したことをもう一度、再体験するように仕方で訪れるので、概念的な記憶（意味記憶）ではなく、エピソード記憶が必要である。これにたいして未来への心的時間旅行には、エピソード記憶は必要なさそうに思われる。しかし、興味深いことに、エピソード記憶を失った人は未来への心的時間旅行がうまく行えないことを示す実験がある。そうだとすれば、未来への心的時間旅行にもエピソード記憶が必要だということになる。

意味記憶のほうは、心的時間旅行に必要なのだろうか。この点についても、意味記憶を失った人が心的時間旅行をうまく行えないことを示す実験がある。したがって、意味記憶もまた必要なのである。そうだとすると、意味記憶とエピソード記憶はそれぞれ心的時間旅行にどのように貢献するのだろうか。意味記憶は物事が体験される時空形式および概念枠組みを提供する。したがって、意味記憶により、エピソード的な過去想起や未来展望が行われる「場」が用意されることになる。心的時間旅行はこのようにして可能となる。

記憶のほかにも心的時間旅行に必要な心的能力がある。それは物語の能力である。心的時間旅行はけっして過去・未来の出来事をたんなる事実として想起・展望するのではなく、一定の価値を帯びたものとして想起・展望する。したがって、それは過去から現在、そして未来へと続く自己の一大物語の一部である。心的時間旅行を行うことは自己を物語ることなのである。自己の物語はそのときどきの出来事に応じたさまざまな情動によって色濃く染められており、この情動がそれらの出来事の価値的な意味を定める。自己物語はそこに含まれる情動によってたんなる出来事の連鎖ではなく、一定の価値や意味を帯びた連鎖、すなわち物語となる。心的時間旅行はこのような自己物語の一部として行われる。したがって、心的時間旅行には情動が不可欠なのである。